

No. 95

公民館だより

平成7年4月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

由良岳・森ヶ鼻道によせて(二)

館長 山下 清 一

私は一度、得も言われぬ崇高な、神秘的で美しい由良岳の姿に接したことがあります。

曙には未だ早い冬空に雲もなく、明の明星のまばたきが肉眼で見られる時分、全山雪に覆われた由良岳が、薄桃色にぼかされ、うす闇の中から浮き出たように美しく、私は崇高な山の靈気に向たれ、唯呆然と立ち竦んでいました。

寒空に銀嶺を晒し、厳然と聳えたつ由良岳の雄姿を何時になく頼もしく、崇敬の念を持って仰ぎ見た、あのときの感動を今

でも鮮明に思い浮べることが出来ます。以来今一度、と願っています。天の時、地の機が合わず、二度目の感動に浴したことはありません。

今年の冬は例年にない大雪となりました。学童通学路の除雪をしつゝ、私たちの子供のころを思い出していました。

そのころ、冬休みに入ると、山之神のお祭りを待ち兼ねたように雪が降り積もり、雪の中の山之神、雪の中での遊びばかりが記憶に残っています。

スキーやソリで、山路、村道や斜面と、ところ構わず滑り廻り、雪合戦や、小鳥とり、野山歩きと、毎晩衣服や靴の乾燥が大変だった母の姿が思い出され

ます。戦争が長引くにつれ、物資が不足し始め、ゴム長等も入手困難となりました。修繕や米麦等との交換によりなんとか工面し履かせてくれた両親の心遣いが偲ばれます。両足にしっかりと合った「ピカピカ」で真新しいゴムの匂い、こみ上げてくる嬉しさが今でも昨日のように甦ってきます。

雪の朝は祖父が、ゴム長の上部分をうち藁でしばってくれるのを待ちかねて、耳あて、外套に身を包み雪道へとび出したものです。上級生が「ラッセル」してくれたあとを大きなランドセルを背負い、やっとの思いで吹雪の中を登校しました。

生徒昇降口から「雨天体操場」を経て教室に入ると、火が入っ

たばかりの「ダルマストープ」から、鼻をつく石炭の匂いが室中に充滿していました。

帽子をとり外套を脱ぐと、頭から、顔から湯気が立ち上り、頬が火照ってきました。上級生が私につけた「リンゴ」の渾名も丸顔で紅に火照った頬が、リンゴに似ていたのです。

節分が過ぎ、森ヶ鼻川の土手の雪を分けて猫柳が顔を出すころは、漸く日の長くなったのが感じられ、処々黒い地肌の出た水田に、セキレイやツムギ、シギ、鴨が見られるようになり、風は冷たくとも春の足音が聞こえて来るのです。

雪解け水で森ヶ鼻川の水嵩が上り、港地区の山の神様の祠下の早くなった川瀬へ、木切れや枝切れを投げ込み流れに沿い大きく蛇行した森ヶ鼻道を小走りに駆け下るのも登校時の行事の一つでした。除雪車は足早に雪を蹴立て、復路を石浦へ……。

三月も十日が過ぎると学校で

は卒業式の歌の練習が始まりました。
恵の露に潤いて

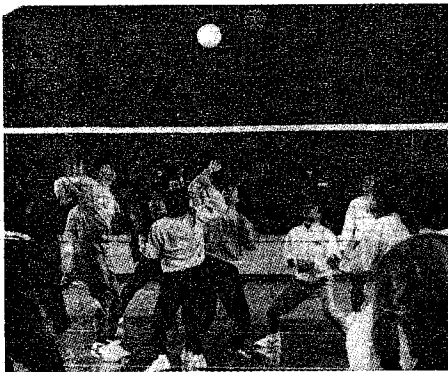
教えの庭に咲き匂う
花の色香……

懐かしい歌声が聞こえてくる
ようです。

子供達の心は、卒業式のこと、
春休みのこと、進級や新しい教室のこと、水田での「ハリ(魚)」の掴み取りや、桑畑での尺取虫取り、大川祭りのことなど、春に向って走り続けていました。

雪分けて

春を告げるや猫柳



行事報告

主事 酒田 治

●第十二回宮津市民卓球大会

十一月二十七日(日)

宮津市体育館において、市民卓球大会が行なわれ、由良地区より出場の選手の方々、熱戦の結果次のとおりの成績を収めました。

(敬称略)

個人A 優勝 川崎 清

準優勝 藤井 忠

団体 準優勝 由良チーム

●市民フィットネスクラブ

交流会 十二月四日(日)

市体育館で、多数のクラブが参加、盛大に交流会が開催されました。由良地区も公民館、バレー同好会チームが参加して、屋外のグラウンドゴルフは寒さのなか、屋内の綱引、ソフトバレーは汗を流し善戦されました。

○綱引き大会

男子の部 第三位

○グラウンドゴルフ交流会

オールフリー 第三位

○ソフトバレー交流会

女子一部 準優勝

●成人式

一月十五日(日)

宮津市の成人式が宮津会館で開催され、新成人三九〇名が出席、会場は華やかさと、若者の熱気の中、市長の激励の言葉、代表の力強い決意表明に「ご成人おめでとう」と呼びたい気持ちで一杯でした。

【由良地区新成人名簿】

(順不同敬称略)

田村 光広 有田美登里 木谷 稔
千阪 信也 西野 拓也 山口 泰輝
栢田奈穂美 山口菜緒子 中西 正直

中西 義朗 吉成 克三 野田 幸枝
山田 佳美 岸田 誠 山下 大輔
(以上十五名)

●第十回同和学習会

一月二十二日(日)

同和問題とは、歴史的発展(戦国時代、江戸時代、……豊臣秀吉)徳川……明治、大正、昭和)の過程で形成された身分階層構造に基づく差別により、日本国民の一部の集団が、現代社会においてもなお基本的な人権を侵害され、何人にも保障されていないという重大な社会問題であります。

同和学習会は「家庭や地域に人権の輪を広げよう」のテーマで、上川口公民館長であり、福知山市同和推進委員会会長の小林 勉氏より、差別の現状と、活発に学習及び啓発運動をされている福知山市の現況についてくわしく講演があり、現在(身元調査おことわり)のステッカー

の各戸掲示運動に取り組んでおられます。



講演のあと、同和啓発映画「父の一番長い日」を上映、差別心が結婚問題でどのように現れてくるのか。どうしたら勇気をもって立ち向えるかについて学びました。講演、映画の感想として、これからもみんなが幸せに暮らして行ける明るい社会作り学習を重ねて行かなければと痛感しました。

● 四部対抗男女バレーボール

大会 二月五日(日)

大変寒い日でしたが、早朝より、寒さを吹き飛ばす熱戦が繰り広げられ、和気あいあいのうちに一日が過ぎました。試合の結果は次のとおりです。

男子の部 女子の部

- 優勝 三部 三部
- 準優勝 二部 二部
- 三位 四部 一部
- 四位 一部 四部

● 地区対抗囲碁大会

二月十二日(日)

外は北風が吹き、静と動とが火花を散らし、白、黒の石が盤上を埋めて行く、きびしさを感じさせる囲碁大会でした。進行に当られたサークルの役員さんにお礼申し上げます。

順位

- 優勝 二部
- 準優勝 四部
- 三位 三部
- 四位 一部

● 自治学級

二月十九日(日)

私達の市、地区の現況を少しでも知り学習する為に、今年も山下議員、中西自治連会長をお招きして、自治学級を由良の里

センターで開催しました。

山下議員よりは、宮津市政に ついて、中西会長よりは、由良の施策についてお話を聞き、その後、宮津市、由良地区の活性化について活発な意見が出され、質疑が交わされました。

(子細は別記)

● 生涯学習講座講演会

(婦人会共催)

二月二十六日(日)

由良の里センターに於て、宮津市字日置の出身で現在日置に在住され、丹後地方の埋もれた昔話を掘り起こされ、北条流に分かりやすく、一度読み出すと、何も忘れて一気に読みたくなるような「丹後のきゃあ餅」著者である北条喜八先生の講演会を開催致しました。

「丹後のきゃあ餅」

くず米に蓬を混ぜて作った餅、鉄きゆうに載せたきゃあ餅がきつね色にこげて「ぶくー」とふくらみます。「ほーれ、きゃあ

餅が蔵建てたど、早よう食え」

祖母が、ぼんぼんと灰を手のひらで払い落としてくれます。櫛火がちろちろ燃えて、戸外は粉雪。心の故郷、これが丹後の味です。「丹後のきゃあ餅・一」より

〔演題〕

「天橋立はこうして残った」

(丹後のきゃあ餅、その三より)

宮津市制四十年の今、初めて知ったお話でした。

その時の宮津町長、三井長右衛門、昭和十二年三月、天橋立を途中で切断して、ニッケル鉞を大型船で運搬するという、軍の強い要請を「戦争は数年、天橋立は永遠です」と命をかけて守った男、三井さんのお話でした。

「丹後のきゃあ餅」一〜三まで里センター図書室にあります。



成人式を迎えて

山口 泰輝

数年ぶりの大雪の中、私達は成人式を迎えました。「二十歳」イコール「大人」というイメージがあります。しかし自覚が足りないためかあまり実感がわいてこないように思われます。それは、現在の親のスネをかじって生活しており、なかなか「責任」という事を感じることが少ないからでしょう。

成人の日を機会に「責任」という言葉の意味をしっかりとふ

成人式を迎えて

一月十五日は、あいにく雪となり、少しもの足りない成人式となっていました。

せっかく着た振りそでも、家と宮津会館の往復だけになってしまい、残念でした。もう一度、成人式をやりなおしたいと思うのは、私だけでしょうか？

まえ、今後大人になったからと言って浮かれる事なく、それでいてフレッシュな気持ちで生活を送っていききたいと思えます。

今、世の中は目まぐるしく変化しています。そのような世の中に適応し、迅速な行動力を持つ人になれるよう、日々自身身のアンテナを磨き、種々の分野にはりめぐらせておきたいと思えます。

山田 佳美

成人式では、たくさんの方々が集まりました。みんな高校を卒業して、別々の道に進んだわけですが、久しぶりに、みんなの顔を見て、とてもうれしく、懐かしく思いました。

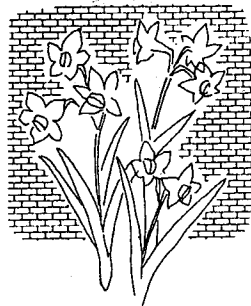
私は、社会人になって、二年が、経とうとしています。

社会に出てからの一年、一年はとても早いです。今、その時間のたつ早さに、ついていけていないような気がします。

これからは、責任もついてくるし、大人として見られます。いつまでも、笑ってごまかすなんてわけにはいかなくなります。私は、私のペースで、前に進んでいくつもりです。

今しかできないことにも、どんどん挑戦していきたいです。そしてどんなことがあっても逃げない。いつも、前向きな私でいようと思えます。

最後に、成人式の実行委員をさせていただきます、本当にありがとうございました。



自治学級

館長 挨拶

阪神大震災の被災者に対し御見舞い申し上げます。

過疎が進む中、豊かで住みよい由良を創出するために、皆さんで勉強し合うのも意義深いものと考えて居ます。

山下市議、中西自治連会長様より、宮津市政や由良地区の施策についてご講話を戴き、皆様のご意見やご高説を承り、皆さんで考え、実りの多い自治学級として下さい。

○山下議員より

昨年は、細川内閣から村山内閣誕生に象徴されるように、内閣は激動の年であった。

新春早々の阪神大震災に対しご冥福、御見舞い申し上げます。

一月十八日一市、四町で緊急支援連絡協議会が設置され、支援行動を開始しました。支援内容

は給水支援、食べものを始め物
資支援、人的支援、受入れ支援
等、現地の対策本部の要請先に
むけて展開されました。

義援金活動にはご協力して頂
きありがとうございます。

恒例の自治学級で報告させて
いただく機会をいただきお礼を
申し上げます。宮津市は、平成
三年に、第四次総合計画を策定
し、来たる二十一世紀の始めに
は、こうゆう町にしたいと致し
ております。これを柱にして平
成六年度は、五つの重点目標を
立て市政が展開されました。事
業の状況について報告します。
先づ第一に、

丹後リゾートの開発と、若者
が定着する町づくりの推進です。
日置地区中心に、リゾート公園
を整備し、多くのお客様に来て
もらうべく、只今用地買収が進
められております。

ロイヤルホテルについては、
昨年の夏オープン、本格的なホ
テルである。最大宿泊収容人員

は、八〇〇人、阪神地区の各団
体のイベントに利用して欲しい。
浜町埋立地の開発については、
阪急電鉄による仮称丹後マー
トが計画され、観光産業の顔とし
て、手続が進められている。

メイン(さとう)地元二五店舗
が入り活性化が計られる。平成
八年の春オープン予定である。
駐車場の少ない宮津市は、浜
町の一角に、立体駐車場を計画
している。

企業誘致も大きな課題であり、
本年夏以降には須津工業用地に
アルパム表紙作成の会社が操業
の予定である。住宅、工場の誘
致を推進し、若者が定住できる
町づくりに取り組んでいる。

第二は、健康長寿の町づくり
についてであります。宮津市老
人保健福祉計画が策定され、福
祉の指針が示される今日、入浴
施策、車いすでタクシーに乗れ
る等、たぐさんの福祉事業が展
開されている。

六十五歳以上の方で、市のス

ポーツ施設利用の場合、申し出
された時は二分の一の減免制度
がある。

又、老人世帯で(手摺り、床
の段差、洋式トイレ、浴室等)
怪我をしないように改良する時
市へ申請すると、あんしん住ま
い改修費の補助制度を利用して
頂ける。

休日の救急診療所が平成八年
度の開設にむけて進められてお
ります。

天橋園、七十床は常に満員
(今でも四十人以上の申込)、
市としては天橋園のご協力を頂
き、デイサービス事業等をふく
め老人福祉に努力を致しており
ます。

日置地区に、十ヘクタールの
用地交渉中で総合的な北部の養
護福祉施設を計画中である。
天橋園内に本年三月には短期
(ショートステイ)八床増床し、
十二床となり利用して頂けます。

第三に、道路交通網の整備促
進であります。

自動車道は、二十一世紀初頭
には、京都から宮津まで開通す
る予定。綾部のジャンクション
から地頭(工事中)のインター
チェンジまでは、九年には開通
予定で、由良まで十五分で走れ
るので活性化に繋がると期待し
ている。

鉄道の電化JR(園部)福知
山間)KTR(福知山)天橋立
間)が電化整備中で八年春には
電車として走ります。京都から
一時間三十分でつなぎます。

第四に、産業の振興
道路交通網の整備、リゾート
開発の観光海園都市に大きく繋
がっている。

農業では、いろいろの補助事
業がありますが、なかなか厳し
い現状です。宮津市では昨年四
月新農業活性化対策協議会を発
足させ、専門委員により、宮津
のこれからの農業について検討
をいただいている。

商工業では、振興融資助成制
度の拡大等図っている。ぶらり

んぐネットワーク事業と連動し、古い建物、城下町、寺町、の観光ルートを設置して、ポケットパークを作ったりして観光の資源とする等種々の事業が進められている。

第五に、生活環境基盤の整備でありこれも重要な課題です。

清掃関係については、昨年十億をかけ清掃工場、粗大ごみ処理施設が昨年十二月、十一億円をかけ完成し稼働している。

埋立の終末処理場も二十億以上とも予想される投資をして整備していこうと関係地区と話しが進められています。

市営住宅もまだまだ不足しているので引き続き建設していく。下水道についても各々の自治体で要望されている。

防災計画は官民一体となりとりくむ必要がある。

市の地域防災計画について。阪神大震災により、京都府の防災が大きな話題になっております。国の災害対策基本法に基

づき、京都府も又宮津市も、それぞれ地域防災計画を策定しております。

京都府の防災計画には、近い将来府内で発生確率が高いと考えられる地震として、北部で由良川沖地震、京都で近江地震、

南部で宇治地震を挙げております。宮津市地域防災計画でも、由良川地震(直下型地震)を考

えており、想定として、大手川、野田川、由良川の流域低地部では、震度六・五以上と算定される。

又由良地区は砂堆積上にある、液状化が特に起こりやすい、津波についても要注意とされており

ます。又避難施設や、場所は、由良小学校、中央公民館、小学校々庭となっております。

こうした点についても地域で検討する必要があります。あまり神経質になってもいけません。常に準備と心がまえは必要です。

宮津市では防災マップを三月中に各戸配布する予定である。

○中西自治連会長より

自治連の事業についてはご協力をいただき有難うございます。

阪神大震災後、由良沖で地震が起きるのではないかと噂が流れている。

自治会で義援金をお願いしたところ、五五六、二〇〇円お願い出来た。(市内自治連トップ)

国道の舗装については、側溝が道路の舗装より高くつくため、なかなか出来ず工事が遅れている。平成七年度は、住宅一四方

医院まで予定され逐次に向って進められて行く。

由良川の護岸工事。鉄橋より上に四〇〇米、道幅四米の護岸が六月末頃までに完成する。

由良地区は、リゾート構想等で前から府より目をかけられて、予算をたくさん頂いている。

現在沖にある防砂堤が景観等に支障があり、関西一の海水浴場として、平成二年度より水面下二米、(小学校のグラウンドよ

り大きい、長さ二〇〇米、幅六十米)の人工リーフ工事で四基を計画、一基が工事中で本年度中に二分の一が出来る予定である。

又、府の単費で海岸に階段式護岸が四ヶ所完成している。

海岸の公園(脇区)に立派なトイレが完成、遊歩道、脱衣場と逐次海岸の施設、設備が進んでいる。

観光について。

平成六年四月十九日に、宮津市の表玄関である、もみじの里公園に、安寿と厨子王のミニメントが設置され、通交中の人々の目を楽しませている。

消防団について。

由良地区の消防団の団員五〇名の確保が困難になって来た。現在団員のはとんどの方が区域外に勤務していて昼間は六名のみで、もし昼間火災が起きた場合どうなるのかと問題が出て来た。

現在各地区に婦人自衛消防隊

があるが、それに頼ってばかり
いられない。

現役を辞められた方、昼間家
に居られる方で(男)OB会等
を作り、二地区で一編成として
発足させてはどうかと、自治連、
消防団と検討中である。

環境衛生について。

ゴミの収集で三月中当地区が
モデル地区の指定になった。市
の職員が点検に来る(ゴミの出
し方が非常に悪い)

社会福祉協議会について。

独居老人等の給食サービスを
ボランティアにお願いし年間四
回配布してもらった。

○意見(村づくり)

・由良がこれからどうなっ
て行くのか

・下水を一ヶ所に集めて濾過出
来ないのか

・農地、非農地としてほ場整備
の土地だけ農地としているが
田にはよしが生えているし、

由良の問題は山積している。

今日も集まりが少ない、次の
機会には前進してほしい。

・今回から、由良の活性化とし
て身近な問題でわかった、よ
り細かい各字の課題や、取り
組みを発表願いたい。又自治
会の役員は必ず参加して欲し
い。

・一般の人達がもっと来て欲し
い。地区懇の会場で、防災の
日を定め訓練をして欲しいと
要望があった。

・有事の際、水の量はあるのか、
又、消火に役立つのか。

・無縁仏の墓石の置き場につい
てはどうなっているのか。

・誰がやっけて行くか、各地区の
青年部、壮年部で由良の今後
について話していただき、市
の方に上げていただき、皆ん
なで、由良作りをして行かな
ければならない。

山下議員より由良地区の活性
化、村おこしとして

・西舞鶴から宮津までの電化に

ついて手をあげてゆく姿勢が
必要だ。

・黄金レールとして、神崎から
栗田迄をゆっくり走行。

(KTRのポスターに常に由
良川鉄橋並びに奈具海岸が使
用されている程、由良は景色
が良い、海岸沿線の立木を切っ
て眺めを良くしたら)

相手の身になって

前 由良小学校長 飯 田 和 子

平成七年一月十七日、午前五
時四十六分、今も記憶に生々し
く残る兵庫県南部地震(阪神大
震災)があり、自然の力の大き
さを、まざまざと見せつけられ
ました。

本校では、常に何事でも相手
の身になって考えることの大切
さを教えてきました。だから阪
神大震災は、人ごとではないの
です。自分達で出来ることはと

・村おこし事業として宮津市唯
一の由良温泉の再開発にむけ
て行動すべきだ。

・住宅地・保養地として、市営
府営住宅の誘致をし地区の活
性化にはづみをつけるべきだ。
・基調講演をお願いした両氏、
参加された皆様有難うござい
ました。

考え、早速お見舞いの手紙を書
いたり、救援募金活動を始めま
した。

二月十日の新聞は、大震災を
受けた神戸の人々が、復興にむ
けて立ち上がる姿を報道してい
ました。その中に、神戸市立神
戸諏訪小学校の子供達の、悲
しみを乗り越えた明るい笑顔が
のっていました。

苦難をはね返し、登校できた

喜びいっぱいの写真に感動し、由良小学校の子供達の見舞文をその学校に送りました。

すると、三月七日、嬉しい返事が届きました。

被災お見舞の御礼

《神戸市立神戸諏訪山小学校長 梅の便りも聞かれる昨今ですが、皆様には益々御健勝のことと存じます。》

さて、このたびの「阪神大震災」には、早速の御援助を賜り感謝の言葉もございませぬ。マスコミの報道で御存知のとおり神戸市は大変な被害を被りました。街の中心地区の三宮、西部の長田、東部の灘、東灘区は特にひどく壊滅的とも言えます。市街地の道は、崩れた積み木の間を歩くような危うさです。電気はかなり復旧したものの、ガス、水道の復旧は遅れ、満足な生活もままならないのが多くの市民の姿です。本校の児童も

二名犠牲となり教師として何とも辛い思いしております。

このような状況ではあります。このように立ち上がる姿が見られるようにになりました。打ちのめされた悲しみの中から、希望を持ち、明日に向けて活動を始めたことは感動的です。また、こうした動きは、全国の方々の励ましや援助に触発され生じたことは申し上げるまでもございませぬ。私達神戸市民は多くのものを失いましたが、代わりに私達のことを我がことのように気遣っていたにいて多くの方々の存在や温かい心を知ることができました。

本校には、まだ八五〇名を越える被災者が生活していませんが、二月六日から学校を再開し、授業を始めました。午前中二時間ですが、久しぶりに登校した子供達の元気な姿が大変新鮮で、頼もしく思え

ました。この災害をしつかりと受けとめ、明日の新しい神戸を創造する子供達を育てたいと切望しております。

今回お送りいただいた御援助は、子供達のために有効に役立てていきたいと存じます。貴校の御職員の方々、並びに児童の皆さんに重ねて御礼を申し上げます、また皆様の益々の御健勝をお祈りいたします。》

子供達からの御礼も、寄せ書等にして入っていました。

・心のこもったお手紙ありがとうございました。うれしかったです。

・お手紙を読んで、元気がでてきました。ありがとうございます。

・お手紙は、よく見える所には読んであり、ひなんしている人たちも読んでいます。

私は、人間のすばらしさを実感することができました。平和な満ち足りた生活では、あたり前のように思ってしまった

水や電気、家や家族のありがたさを見直すことや、相手の身になって考えることの大切さ、人の情に支えられた人間の強さを知ることができました。

人間としての生き方を学ばせる本校での大きな取組として、同和問題の解決に視点を当てた同和教育があります。

「私は差別をしていません。」
「差別をする高齢者がいなくなれば、差別はなくなる。」
「そして、差別はなくなる。」
「など」と言う人がありますが、本当にそうなのでしょうか。

明治の初め、四民平等になつてから、一〇〇年余りたちましたが、残念ながら、まだ差別は残っています。いろんな取組がなされた結果、多くの問題は解決されてきました。しかし人の心の中に、差別が残っていることが、宮津市の意識調査でもはっきりしています。これだけ科学が発達した世の中に、いわれなき差別で苦しんでいる人達がい

ることを、きちんと受け止めて、差別をみぬき、自分の問題として差別を許さない子供を育てる努力をしてきました。差別は、無知や偏見等から生じます。正しいことを知り、人それぞれの違いを認め、お互いに共生していく、そういう社会を築くことは、自分のためでもあるのです。大人も、世間様がなんて言わないで、自分のこととして本気で差別を許さないことが、住みよい社会になるものなのです。

囲碁同好会

一月八日平成七年度農協囲碁大会に於いて、由良囲碁同好会は二チーム出場して、A B共優秀な成績で終了しました。特にAチームは、二十一勝四敗という見事な成績で優勝しました。このように由良チームは、他の

また、平成七年度から学校週五日制が月二回実施されます。即ち、第二と第四土曜日は学校は休業となります。家族の一員として、地域の一員として、人々とのつながりを深め、主体的に生きぬく人間の育成をめざしています。御協力お願いします。相手の身になって考えることにより、人間の強さ、温かさが発揮され、由良地区が益々発展されることを祈念しています。

大石 俊 雄

地区の人達には非常に恐れられている存在です。しかし、去年、今年と二人も有力会員が亡くなられ、会員の減少に悩んでおります。囲碁は、白黒二通りの石だけで、交互に打つと言う、一見単純なゲームですが、奥の深

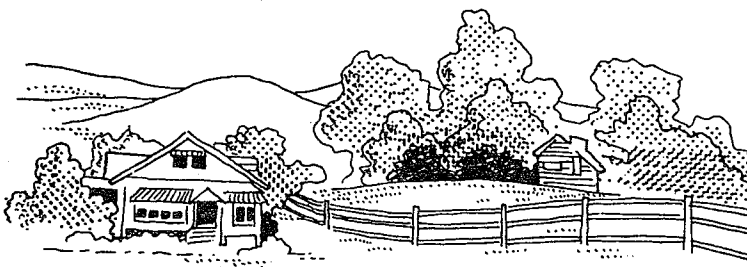
いゲームです。又、力量の差に応じて石を置いて、誰でも対等に打てるゲームです。初心者の方でも気軽に来て下さい。原則として、毎月第一第三日曜日に例会、研究会を開いておりますので時間を作って御参加下さい。

【囲碁十訣】

- 一、不得貧勝
むさばれば勝つを得ず
- 二、入界宜緩
界に入らば宜しく緩なるべし
- 三、攻彼顧我
彼を攻むるには我を顧みよ
- 四、棄子争先
子を棄てて先を争え
- 五、捨小就大
小を捨てて大に就け
- 六、逢危須棄
危きに逢わば須らく棄つべし
- 七、慎勿軽速
慎みて軽速なるなかれ
- 八、動須相応
動けば須らく相応ずべし
- 九、彼強自保
彼強ければ自ら保て

十、勢孤取和
勢孤なれば和を取れ

この囲碁十訣にも有るように、囲碁は人生の縮図でもあります。この十訣のような生活をすれば私達の生活もうまく行くのです
が……。



生涯学習に参加してー

今こそ誹謗を恐れず社交の場へ

山下 よし子

公民館と婦人会の共催による「生涯学習」に参加した。各地区の老若男女の出席を期待して出かけたが空席が目立ち、がっかりしたことには男性は館長と主事、他に文化部役員一名だけであつた。生涯学習というとならず体力面で、心の面は一步遅れているという日頃の思いが立証された。心身両面の健康が維持されて、個人から共同体へと生活の基盤が出来、それが高齢化社会へ引き継がれると考えると、今回の欠席者は精神面の学習のチャンス逃したことになる惜しいと思う。

最近、「共育」「共生」が叫ばれる一方で、人間土に還る時はひとり、自助努力してこそ自分の人生があると考える人もい

て、親子の関係や社会福祉に頼ろうとする考えを甘いとする声も聞く。その声が力のある者の傲にも思え背筋が寒くなる。(力の定義がこわい)。ひとりに

なった時のこと夫と二人になった時のことを仮想してみるが、体が健康な時には心の方が疎かになり、家族と一緒の時には絆を過信して孤独な自分の姿は見えにくい。ゆとりのある老後にしたいから、学習の場を大切にしたいの栄養にしているが体力に自信はない。

阪神大震災のことには敢えてふれないが、すぐに行動の伴わない意見や自己主張は軽視されがちであるが、時間をかけて実行に移そうとする必死の努力も重視されなければ、みせかけだ

けに終わりやすいと思う。熱中

できるものを持ち継続すること
を心がけ、自分の貧弱な城の中に
小さな孤独を築きたくないの
で、社会が用意してくれる社交
の場を利用して、外に向ける目
と鋭気を養いたいと思う。親身
になって励まし切磋琢磨しその
結果、適材適所で自分が生かせ
るそんな共同体、高齢化社会が
理想である。個人も個性も尊重
される社会になったのに、身近
な社会参加の状況を見る限り人
の輪に加わることを阻む風潮が
地域には、まだ残っているよう
に思う。非力なお前に何が分か
る！ と叱られそうなのでこの
話はここで打ち切ります。

さて、英語が好きでそれを生
活の糧にしてきた私は、今、国
際交流に少し首を突っ込んでい
る。海外へ行ったことはないが、
沢山の外国の人たちと知り合い
になった。AET(英語指導助
手)の人たちを中心にその家族
友人と幅は広い。時々集まって

交流を続けている。

彼らをまず案内するのが天橋
立である。白砂と緑濃い松並木
の作り出す「飛龍観」を前に言
葉は不要。誰にとっても「ワン
ダフル」である。

北條喜八先生の天橋立の切断
話「たつたひとりの反乱」をお
聞きして、内外の人を案内でき
る眺望を命をかけて残してくれ
た人―三井元宮津町長のことを
初めて知った。伍堂商工大臣に
当時の国家権力と狂気を知り、
二人の生き方が強烈に残り、じっ
くりとその人柄に触れたくなっ
て、矢も盾もたまらず中西夏江
先生に本を借りに走った。一気
に読み終えた。感動は深まり二
人の役廻りと天橋立に魅せられ
て熱くなっている。北條先生に
感謝して、もっともっと書いて
下さいとお願ひしたい。「待つ
ています。続編を」の心境です。
「チャンスは自分で掴む」
「社交の場へはすすんで参加す
る」私のモットーが生きて走り

出したようだ。折しも同好の仲間と日頃、指導を受けている先の方の案内で、名松奇松を含む松並木を散策する日が近づいている。その日、私の観賞の目は輝いているはずである。

自治学級に参加して

森 野 千代子

二月十九日「村おこし」をテーマとして、自治学級が開催されました。

市政面について、市会議員の山下伊左衛門氏、由良地区の現状として、自治連会長、中西孫兵衛氏による講話でした。内容として、阪神大震災の一市四町

による連絡協議会を発足し、支援活動を行った様子、京都縦貫自動車道、鉄道電化、若者の働ける場の企業の誘致（アルバム、会社等）、福祉の問題として、天橋園のベットの数他、休日の救急診療所の施設の件、国道の舗装、護岸工事（防波堤）、国定公園の整備、観光面では、もみ

四部対抗バレーボール大会で

森 田 耕 二

二月五日（日）今年も「四部対抗バレーボール大会」が開催されました。

「由良地区住民の健康増進と親睦をはかる」ことが趣旨とはいうものの、四部対抗であるからには当然「他の地区には負けまい。」とそれぞれの地区の体育部幹事は、選手を選考し依頼するので、あまり多くの方にお願いますと、当日に「申し訳ないですが、控えて」とのお願いができません、幹事は大いに悩むのです。

ということ、今回は八名にお願いをして、体育部幹事二名プラス浜野路分館長の計十一名でメンバー表を提出し、試合に臨みました。

驚いたのは、二試合目。試合前のウォーミングアップでメン

バーを数えるとなんと八人。「あれ!! ○○さんと○○さんはどこ?」ここで登場するのがチーム最年長の分館長。「分館長!! 頑張ってー」と黄色い声援。なかでも庄巻だったのは、中盤おされ気味の展開での分館長の連続サーブミス。五、六点は稼いでもらったでしょう。これで勢いにのって連勝。

三試合目も勝って、常勝の女子チームと共にアベック優勝となりました。どのチームも技量には大差ないのでから勝因は、点を取ってもミスしても大きな声をかけ合って自分達で盛りあげたチームワークなのでしょう。聞けば十五年ぶりのアベック優勝だとか。お陰で、試合後うまいビールをいただきました。みなさん!! 御苦労様でした。

四部対抗バレーボール大会に参加して

濱野典子

去る二月五日、由良小学校体育館で恒例の四部対抗バレーボール大会が開催されました。時折、雪が降る寒い日でしたが、体育館の中は選手・応援の人達の熱気でみなぎっていました。

男子と女子が交互に試合をし、浜野路男子の試合の時には応援の声も一段と大きくなり、歓声が上がったり表情もいろいろです。他の地区の時は、あの人はどこの誰々だと教えてもらったり、世間話をしていましたが、選手の人には試合中はその人も真剣そのものでした。

いよいよ私たちの試合開始。白いボールをみんなの目は追いかけて競技が始まりました。常日頃、ソフトバレーはしているものの皮バレーを扱っていない私には、白いボールは小さ

く目に写り、触ると固く感じ、しばらくは感覚がつかめず、この私がここにいってもいいのであろうかと不安でしたが、競技が進むにつれ白いボールを目で追いつ、自分の所にくればレシーブするようになっていました。

四部に勝ち、二部にも三セツト目で勝ち、一部にも勝ち今年も浜野路女子は優勝でした。男子も今年には優勝を勝ち取りました。

年々、年令層も若くなり自分の年を感じましたが、若い人達と一緒に一回、二回と試合に出る若いエネルギーを分けてもらうことができた日でした。この大会の準備をされた役員の皆様、応援を下さった多くのの方々ありがとうございました。

浅 春 大森 万喜子

外は雪 湯のしの毛糸ふんわりと箱に盛り上がる服一着分
厄拂う豆撒く声を高々とひびかせて夜のしじまにひとり

軒下の竿にかけたる玉葱の青き芽立ちて今日は立春

沈丁花増す朝に亡き友の歌しのばせて粗供養届く

沈丁花ちらほら咲ける弥生月三寒四温今朝雪を見る

さりげなく胸に付けたるブローチの小さき真珠に心ときめく

膝つきて下水溝の泥を掬い上げ春浅き日の水を流せり

足病めば山に登りて露を採ること難くなりて宿根を畑に植う

友寄りてその手作りの弁当に匂の匂い立つ露の臺三つ

手に余る程の重量に迷いつつバイク免許の更新を受く

婦人会活動に参加して

浜野 千鶴子

春の足音がすぐそこに聞こえ
 そうな頃となりました。昨年四
 月から役員をさせてもらい、一
 年間大変だったけれど良い学習
 の場をいただき由良の事だけで
 なく宮津市、又は、外の方面の
 事も多く教えられました。特に
 「宮津市政四十周年」の年にあ
 たり記念行事が行われ、有名な
 方の講演も多く有り、由良から
 あまり出ることもない毎日を送っ
 ていた私にとって、有意義な年
 だったと思います。

婦人会活動を振り返りますと、
 やはり公民館と共催した盆おど
 り大会、参加者は少ないですが、
 由良のおどりが忘れられないよ
 う長く続いてほしいと思いまし
 た。それに十一月の文化祭、子
 供達から老人の人達まで里セン
 ターが、この日は本当に賑わい
 ました。うどんもせんざいも本

当においしかったでと声をかけ
 てもらい、これも本部支部役員
 は十八名のチームワークの味だ
 とつくづく思いました。今年は
 特に最後になり、ゴミの問題が
 出て由良が三月モデル地区に指
 定されました。日常生活してい
 る以上ゴミとは縁が切れないの
 ですから、立ち番をして皆さん
 と一緒にゴミの出し方を勉強さ
 せてもらい、一人でも多くの人
 がゴミの出し方に自信を持って
 いただけたら、減量化に役立つ
 のではないかと思います。最
 後になりましたが、婦人会役員
 様ならびに会員の皆様にはこの
 一年間大変な御協力をいただき、
 色々な行事を終わらせてもらい、
 今日に至りました事を御礼申し
 上げます。本当にありがとうございます
 でした。

民謡サークルについて

民謡と共に

玉音会 枡田 まさ子

趣味として習い始めた民謡も
 いっしか十二年の歳月が流れま
 した。

その間の私達の歩みを少々ご
 紹介させて頂きます。

民謡玉音会は本部を京都、舞
 鶴に置き、年二回の京都出演を
 行事としてその歌唱力の向上に
 練習を重ねて居ります。

先づ春は祇園甲部歌舞練場に
 て唄と踊りわがふる里と題名し
 チャリティ大会と……秋は宮川
 町唄舞練場に於て玉音会民謡民
 舞フェスティバルに出演参加す
 る等日頃の歌唱技能を發揮し各々
 の持味を生かした唄い振りを選
 曲の良さは会主の高く評価する
 ところです。又それには多数の
 愛好者もつめかけて下さり、我々
 は緊張の連続ですがその一方で

は日頃の雑念をはなれ唄一途に
 心を傾ける一時でもあります。

民謡と云えば、昔は農漁民が、
 労働の慰安の宴席で、伴奏なし
 で、素朴な歌を唄うのが、一般
 的な通念でしたが、労働が機械
 化された今日では必ず器楽の伴
 奏がつき稽古事として練習の成
 果を舞台で、歌唱技法として唄
 う様になりました。それにつれ
 一般の方々の耳も大変肥えてき
 ています。芸事としても高度な
 歌を望むようになりました。

民謡の教本に出てくる歌詩に
 よってその土地の歴史を知
 り当時の様子も何う事の出来る
 等又たのしいものです。

民謡は一口にむずかしいとい
 一般の方々の通り言葉ですがなる
 程、優しいと云えばうそになり

ます。

しかし何もわからず、考えず、素人から初めた民謡ではありましたが、その良さは激しい時代の移り変りの中にあっても心を和ませてくれるのは此の民謡だ、と信じ私の生涯の学習として歩んでまいり度いと念じて居ります。

十年を経た此の教室では指導者と我々教わる同志とが、いっもどんな事でも事細かに尋ね話し合い家庭的な雰囲気の中で、個人指導を受けているのと同様、仲良く充実した練習の日々を重ねている昨今です。

昨年の芸能祭には折悪しくも各々の都合にて参加させていただく事が出来ず申し訳なくいつもお世話下さる公民館役員の方々にお詫びを申し上げますと共に何れ来たる次期芸能祭にはと……。

最後に述べさせていただきますが、以前よりの思いでもあり考えでもありますが、私達の由

良教室は舞鶴に所属する支部ですので、舞鶴市主催の芸能祭には殆ど参加させていたできてきまして。従って宮津市主催のすべての行事には縁遠いものとなっていました。私は此のサークルの紙上をお借りいたしました宮津市の一人の人間として此の民謡も市民参加の一端とさせていただきます。嬉しく望む所でございます。

文学の見える風景(六)

三島由紀夫「金閣寺」その二

中 西 夏 江

私共の玉音会会主先生は此の様に申して居ります。

一人でも多くの会員が大きな声で「健康」を発表してほしい。健康は何にも勝る財産です。民謡は好きだから唄う。むずかしい理屈はありません。それが民謡の貴重な財産の伝承になっていくとの事です。皆様も大きな声で唄ってみませんか。

三、私の轆轤不遇(時に遇わず志を得ぬこと)。

四、私の吃り。

五、私の存在の条件。

こうした諸々の思いです。

友人から借りた三千元を懐ろにして京都駅を発ち、西舞鶴に降り立った溝口は、

P200 今にして思うのだが、私の旅の衝動には海の暗示があり、その海はおそらくこんな人工的な港の海ではなくて、幼時、成生岬の故郷で接していたような、生れたままの姿の荒々しい海であった。肌理の粗い、しじゅう怒気を含んでいる、あの苛立たい裏日本の海なのであった。と、西舞鶴の港の海に失望し、さざめくような深い嘆きと悲しみに誘われ、

P200 だから私は由良へ行こうとしていた。夏は海水浴で賑わう浜も、この季節にはさびれていて、ただ陸地と海とが、暗い力で鬩ぎ合っているに相違なかった。西舞鶴から由良へゆ

前回では、この小説の主人公溝口が、中学生の頃から愛していた金閣寺の徒弟となりますが、金閣寺に対する想念の変化により、旅に出ようとするまでを簡単に紹介しました。

彼は、金閣寺を含む「凡てのものから逃げ出したい」のです。

その凡てのものとは、
一、寺の生活。・予想もなかった、信頼していた金閣寺の老師の恥ずかしい行為とその後の態度。・友人関係と私生活(彼は仏教大学の学生になり得度もしている)

二、私を縛りつけている金閣の美。

く道は、ものの三里もあつたが、私の足はうる覚えに覚えていた。道は舞鶴市から湾の底部に沿うて西へ向い、宮津線と直角に交わり、やがて滝尻峠をこえて由良川へ出る。大川橋を渡ったのちは、由良川の西岸ぞいに北上する。あとは川の流れる姿なりに、河口まで導かれるのである。

私は市街を出て、歩きだした……。

歩きながら足が疲れてくると、こんな風に自分に問うた。

『由良に何があるのか？ どんな明証にぶつかるために、私はこうしてせつせと歩いているのか？ あそこには裏日本の海と、人のいない浜とがあるだけではないか』

しかし、私の足は滞る気配がなかった。——略——

遂に目指す由良へとやって来ます。以下、約四〇年前の由良川や海の風景が、三島由紀夫の鋭い

感覚によって繊細、かつ重厚に描写されています。紙面をお借りしてご一読をお勧めしたいと思います。ですが、いかがでしょうか。P201 川の広大な流域へ近づいてゆく風景のなだらかな傾斜はなく、由良川は山のはざまの道から、突然その姿を現わした。川水は青く、川幅は広いのに、流れがどんよりとして、曇り空の下に、それは徐々に不本意に海のほうへ運ばれてゆくかのようなだった。

川の西岸へ出ると、自動車のゆききも人のゆききも絶えた。道ぞいに夏蜜柑の畑がときどき見られたが、人の影は射さなかった。和江という小さな部落があったが、そこでも草をかきわける音が俄かにして、鼻毛の黒い犬が顔を出したきりである。

このあたりの名所としては、由緒の怪しい山椒太夫の邸跡といた。そこへ立寄る気もなかった。私はいつものまにかその

前を行き過ぎた。川のほうばかりを眺めていたせいである。川中に竹藪に包まれた大きな洲があった。私のゆく道には風がないのに、洲の竹藪は風にひれ伏していた。天水で耕す一二町歩の田が洲の上にあつたが、農夫の姿はなく、一人、こちらへ背を向けて釣糸を垂れている人が見えた。

私は久々に見る人影に親しみを抱いた。

『鯛釣りだろうか。もし釣っているのが鯛だとすると、ここはもう河口から遠くない筈だ』

そのとき、ひれ伏している竹藪のざわめきが川音をこえて高まり、そこに霧の立つように見えるのは雨らしかった。雨滴が洲の乾いた河原を染めた。と思う間に、私の上へおちかかると見

た。私が濡れながら見る洲の上には、もう雨の気配はなかった。釣をする人はさっきの形のまま、身じろぎもしなかった。そして私の上の時雨も過ぎ

た。

芒や秋草は、道の曲り角ごとに私の視野を覆っていた。しかし河口が、目の前にひろがるのは近かった。大そう寒い潮風が鼻を擽って来たからである。

由良川は終りへ近づくと、いくつかのうらさびしい洲を露わにした。川水は確実に海へ近づき、潮に犯されているのだが、水の面はますます沈静に、何の兆もつかべていなかった。失神したまま死んでゆく人のように。河口は意外に窄い。そこに融け合い、犯し合っている海は、空の暗い雲の堆積にまぎれ入り、不明瞭に横たわっているだけである。

私が海を触知するには、野や田畑をわたつてくる烈風にむかって、なおしばらく歩かなければならなかった。風が北の海を隈なく描いた。こんなに厳しい風が、人の気配もない野の上に、このように浪費されているのは、海のためだった。それはいわば

この地方の冬を覆うている気体の海、命令的な支配的な見えざる海なのであった。

河口のむこうに幾重にも畳まれていた波が、徐々に灰色の海面のひろがりを示した。山高帽のような形をした島が、河口の正面にうかんで来た。それは河口から八里の冠島で、天然記念物の大みずなぎ鳥の棲息地である。

私は一つの畑に踏み入っていた。周囲を見まわした。荒涼たる土地だった。

そのとき何かの意味が私の心に閃めいた。閃めくかと思うと消え去り、意味は失われた。しばらく佇んでいたが、吹きつける冷たい風が私の思考を奪った。私は又風に逆らって歩きだした。痩せた畑地は石の多い荒蕪地へつづき、野の草は半ばは枯れ、枯れていない緑は、土にへばりついている苔のような雑草だけで、その雑草の葉もちぢれて、ひしゃげていた。そこらはすで

に砂まじりの土であった。

慄えるような鈍い音がしていた。人声なきこえた。それをきいたのは、思わず私が烈風に背を向けて、背後の由良ヶ嶽を仰いでいたときである。

私は人の在処を探した。浜へ下りるには、低い崖づたいに下りる小径があった。そこで甚だしい浸蝕に抗して、ほそぼそと護岸工事が行われているのがわかった。白骨のようにコンクリートの柱があちこちのところがつっていたが、砂の上のその新しいコンクリートの色は妙にいきいきと見えた。慄える鈍い音は、杵に流し込んだセメントを震動させているコンクリート・パイプレーターの音であった。鼻の頭を真っ赤にした四五人の工夫が、学生服の私を訝かしそうに見た。

P203 12行まで。

(後は次回へ)

宮津市婦人バレーボール大会

大森 恵子

十一月十三日、宮津市婦人バレーボール大会が、宮津市民体育館で、行われました。

バレーボール大会があると聞いてから、メンバーを集め、練習日を決めました。そして、試合に向けて、みんなで一生懸命、練習しました。男の方にも練習に参加していただきました。

試合が始まる前は、みんな緊張していました。さあ、いよいよ試合開始です。笛の合図で、コートへ、そして、「ファイト」のかけ声で、気を引締め、ポジションにつきます。試合が進んで行くうちに、緊張もほぐれ、リラックスして、プレーが、できるようになりました。かけ声をかけ合って、ボールをおいかけます。トスが上がり、アタックが決まると、手をたたきあつ

て、大喜びしました。みんなの意気を合わせ、得点を重ねていきます。その結果、準優勝することができました。すごく嬉しくて、みんなで飛び上がって喜びました。

毎日、家事、子育てに追われている中で、この大会に、微力ながら参加させて頂いたお陰で、とても楽しい時間を過ごすことができました。

男の方にも、協力していただき、ありがとうございます。そして、婦人会の役員さん方には、お忙しい中、練習の時から気遣い頂き、また、当日も色々とお世話になり、本当にありがとうございました。

郷里に於ける澤井市造話題(十)

作 中西 孫兵衛(先々代)

由良の歴史をさぐる会 四方 寿 朗

彼に是に焦心苦慮を費し其費額を内葬の倍額若くは三倍迄の定として事に當らん見込にて計画を運らせしに外よりは餘り突飛にあらずやとの忠告も承けたれども自信を強め着々断行処理せり澤井君来られ「ウン能く出来たよ是て満足だ」との賞詞を受けた時は私こそ大に満足に思へり又葬式に招待せられたる和尚方より沢井君に対し立派々々能くも斯く迄に手を盡されたとの挨拶あるや沢井君透かさず「イヤ私でない一切中西君が處理し呉れたのです彼れなればと信じてやらせました万事我意に適するやう遺漏なく遣つて呉れました」と云れし由其席に居合せたる私の知己より洩れ承った又或和尚より私への尋ねに一体貴殿

と沢井さんとは如何なる親族関係ですかとの事「イヤ全く莫逆の友で兄弟同様肝胆相照らす交を結んで居るのです」と答へたれば所謂信義の二字で御座るなイヤ夫程迄に相互に信義を確守せらるゝは双方共に感心の外はござらぬと語られました。如上聊か自惚て間敷嫌なきにあらずと雖事実の真想は穿つ上に於て止むを得ざるなり乞ふ恕せよ

此葬式挙行の翌日私は矢張早朝より松原寺へ出勤して夜帰宅して聞けば今朝紋付の羽織を着用せし立派なる三人裏口より入り来り突然「ばやん」と大声に呼ばれ始め人の来れるに気付き今日は胆を潰された誰ならんと熟視すれば意外沢井さんなりしには

実に驚かされたとは老母や妻の物語なり扱翌日君は僕の裏口より不時突撃を試み家族を驚かせた由言へばハッハ〜と大笑して実は墓(朝参の帰途太田やら三杉やらを連れて居たから彼等も己れの退隠といふ事を心配し前途を屢々尋ねて呉れるし今日は彼等も安堵させる積にて意中を語りつゝ老後を静養すべき屋敷の心當りを一見させ置く考で現場へ連れ行き其仮君の裏なる垣を乗り越え裏口より入りたとの事依て其屋敷の心當りといふは何処なりしやと聞きしに「君の屋敷の裏にて彼の畑地を千四五百坪を買ひ地続なる墓地も出来るならば買入れ土工を加え理想的の屋敷を造りそれに餘り大ならざる屋敷建即ち別荘体といふ見えの家を建てたしと思ふ今日に限りたることならねど地所を何程にて貰へるか聞かせ呉れ」と話さる然らば依然退隠の暁には此村に老後を静養せらるゝ意志なるは真実の事歟と反問を試

みしに「無論サと答へられて若し他処で死すとも故山の土となり親兄弟と一つ所に永眠したいと思へばこそ現に家内の骨すら持ち来れるにあらずや君等とは異に不幸両親の顔さへ見知らず孤独の哀愁に沈み兄弟にも早く先立たれたる心情如何を察し呉れよと暗涙滴下悲愁の雲に蔽はれし顔容に接しては私も覚ええず同情の念湧き来り九腸將に裂けなんとし沈思黙坐相對する少時矣。

其三日目であると覚ゆ「ヲレは斯くの如き業体的故平素佛に対し香華茶湯の務も自然忽になりぬべし依て御寺より守護を托したし君宜しく取計呉れよとの事それは快諾す祠堂金といふ譯のものなるべし此の保管法は永久に渉るもの故熟考を要すと答えしに「イヤ金にて保管するは宜しかるまじ如かず土地を買與えんには年末に作徳米の三俵も寺の蔵へ納まる事にして是を以て佛を永久に構ふて貰ひたし金は

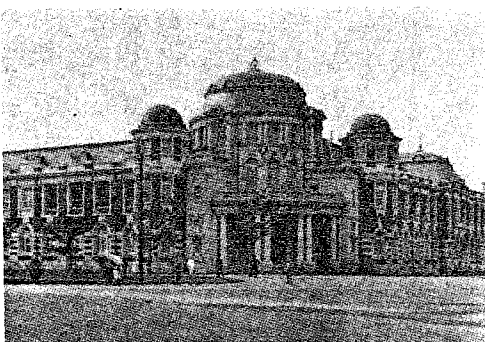
消滅し易きものにて消滅の後は其効を失ふといふ恐れもあれば是非地所にしたし」と云はる其価格何程出資するやと尋ねしに先づ三百円との答にて其席に塩見覚脩和尚も居られ聞かれし事と思ふ其後適當の売物もなし一度売物が出ましたから相談の手紙を出せしが其地味上等にあらざと申送りしかば良き地所にあらずば此度は見合せよとの返答にて其儘になりて今日に延びた次第なり

此四十年に於ける由良にての葬式に係る一件書類も備へ有る筈なれば重復に話すべき要なし
拾四
明治四拾老年と覚ゆ又々郵書を以て本家沢井貫蔵の家政経済を取調べ報告すべき旨申来る要するに不動産動産を売払一先づ改革したく同情を求むといふ手紙送りたるに基因す私は貫蔵氏家に負債のある筈はなし尤も同じ経路を履める我々も農業を以て生活を営む當地の人はいづれも全

様の事沢井家に於ても樂觀的生活といふにはあらねど敢て市造君に心配をかける程の悲境にはあるまじ是は貫蔵氏何か考へある懸引ならんと案じ又是と相前後して渡米の免許下附を出願し此舉を聞くや熊田芳蔵氏も出願したるが調査の結果双方共不認可となりたる為貫蔵氏は芳蔵氏が邪魔を為せりといひ芳蔵氏は彼と是とは別事にて邪魔なぞは思ひもよらずと双方相争ふといふ事もあり旁々兎も角一応本人に糺す事として右私の考察を述べ其他に事故ありや否と以てせしに果せる哉案に違はず何歟市造君に考案を煩はず目的にて負債の為め云々は全く一時の假設事なること判明せしかば右の趣詳細に及びたり今現に貫蔵氏が澤井組の一人となり居るは目的の副貳たるものにて主たる目的としては市良君を便り渡米せん企望ならん何れにしても初一念の目的を半ば貫徹せしに庶幾らんかと思ふ

拾五
明治四拾老年七月に隆澤院の一回年忌に墓地なり法事として沢井君は台湾より中西忠夫大阪より小室桑蔵の両氏を伴ひ来村せらる一行は當日小室宅に着す私も訪問し佛事に來られた挨拶をせしが「左様妻の法事など思へは馬鹿らしく是等の事は須らく省略して君等が心配して居る学校の建築費の内へ寄附した方が供養ともなりなん教場の棟も致さねばならぬのか」と尋ねられしかば「イヤ半棟にて結構なり」と答へに然らば其工費何程かと栞棟にて凡三千圓であるから千五百円なり」と答ふ随分からるね惣じて物価が騰貴したからなそれでは法事は質素にするよ」と云はれ其翌朝面談の時「彼の寄附は取消すよ」と云はる「何故なるか」と尋ねしに他人より勧告否諫止せしもの歟「聞けば既に手當も出来て居るといふ話なりヲレが寄附は縁の下の舞となるとの事そんな詰らぬ事をせ

ずともまだ他に効力のある寄附の道は幾つもある」と云ふにあり寸善尺魔好事は兎角魔多しとかと世事は種々の障碍を生ずるものにて此等の説明するには甚だ骨が折れました是で中途取消の宣告を食ったのは曩の国債募集の時と二度であります斯くも脳殺されしには私も殆んど困りました此度は一番証明書を徴し置き他日の煩ひなからしめんと考へ委任状を認め是れに姓名を記し捺印を請求して請取ったといふ次第でありました。



台湾総督府台北廳々舎（澤井組が建設）

川柳

宮津番傘川柳会

編集後記

明日がある救いに今日の幕下ろす

曲り角戻れぬ春の宵を切る

母が来て背すじが伸びる参観日

愛の手がそつとふれ合うボランティア

かけめぐる孫の子守りが先にのび

年かさね一言多い日々となり

花の径自己史貧しも精気満ち

樹々匂う 古い衣を脱ぎ捨てて

坂本 妙子

藤本 喜代子

山下 節子

山田 寿美

此のたび、元由良地区公民館長、故藤本秀雄先生のご遺族、藤本進一様、から、地区公民館活動資金として、多額の金員のご寄付を賜りました。公民館活動の貴重な資金として有効な事業に充当させていただきます。ご厚志の程厚くお礼申し上げます。

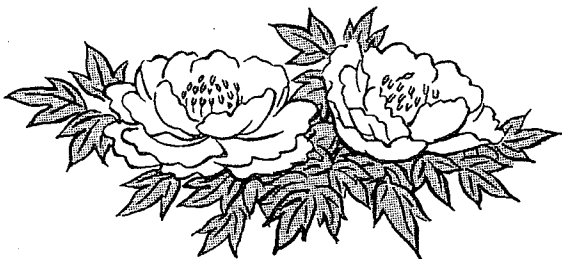
紙面をお借りしてお礼とご報告を申し上げます。

陽春を迎え皆様には益々ご清祥のこと々お喜び申し上げます。公民館だよりNo.95をお届けします。おかげを持ちまして、平成六年度事業も無事終了出来る見通しとなりました。公民館に寄せて下さいました皆様のご支援に対し、厚くお礼申し上げますと共に、引続き平成七年度もよろしくご指導、御鞭撻下さるようお願いいたします。

〔お詫びと訂正〕

公民館だよりNo.94・4ページ掲載の「芸能サークル発表会」と題した作者名が間違っていました。お詫びの上訂正します。

誤 松林友子
訂正 松林朋子



(山下記)

